

持続可能な開発目標（SDGs）推進本部 第4回会合 総理御発言

我が国は、SDGsの推進を通じて、創業や雇用の創出を実現し、少子高齢化やグローバル化の中で実現できる「豊かで活力ある未来像」を、世界に先駆けて示してまいります。

そのため、日本ならではの「SDGsモデル」を構築することとし、第2回会合で決定した『SDGs実施指針』における8つの優先分野に総力を挙げて取り組む上で、この度、『SDGsアクションプラン2018』を策定しました。

この『アクションプラン』では、日本の「SDGsモデル」を特色付ける大きな柱として、次の三つを掲げました。

一つ目は、SDGsと連動する官民を挙げた「Society5.0」の推進です。具体的には、ベンチャー企業支援を含む「SDGs経営推進イニシアティブ」や投資促進の仕組み、SDGsに資する科学技術イノベーションのための「国際ロードマップ」など、企業の取組を更に後押しする施策を、来年年央までに策定します。

二つ目は、SDGsを原動力とした地方の創生です。新たに立ち上げた「自治体SDGsモデル事業」を、地方創生の関連支援策と総合的に運用することにより、関係省庁が一丸となって後押ししていきます。

三つ目は、SDGsの担い手としての次世代や女性のエンパワーメントです。働き方改革や女性の活躍を推進し、SDGsを主導する人材育成に注力します。また、日本ブランドであるユニバーサル・ヘルス・カバレッジを始めとする保健や、教育、防災、女性分野等における国際協力も主導していきます。

世界の注目が日本に集まる、2019年のG20サミットや2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会等の機会も最大限活用し、世界に向けて日本の取組を発信していきたいと考えます。

関係閣僚におかれては、来年の年央に予定される次回会合までに、この三本柱を踏まえつつ『アクションプラン』の実施に注力し、SDGsを推進する取組の更なる具体化及び拡充を進めるようお願いいたします。

以上